道

2019・9・25

通信　Ｎｏ　１５５３

≪次週は3部練習中山先生≫

≪本日は小坂先生です≫
・わたしの野原よ（P）
・マロースカ（冊子）

・若きシベリア（ｐ）
・ソルモヴォの抒情歌（P）
・波止場の夜

51周年　1部で演奏する「マロースカ」について

青山義久先生は、2015年9月10日に逝去されました
アコーディオン奏者
合唱団「道」の伴奏は1985年から30年間

「マロースカ」はロシアの民話を基に、元合唱団員の浦山さんが訳されたものを使って、合唱団のオリジナル曲として作成したいと提案されました。青山先生と一緒に2年間かけて、創らました。近日中に民話のストーリーを印刷して配布します。

歌詞づくりは団員の希望者数人で関わりました。それに青山先生が曲を付けられました。私たち「道」の団員はアコーディオン奏者としての青山先生の側面しか知りませんでした。
何人かの方がブログで青山先生の事を綴られているので下記に紹介します。

Aさん；青山義久さんを偲ぶ歌の会が開かれました。各団体の演奏とコメント。氏が作曲した歌をみんなで歌ったりと盛りだくさんの内容でした。プログラム中に青山さんのこんな言葉が載っていました。「本当に力強いうたは　ほんとうにやさしいうたと　同じものじゃあないだろうか　そこらへんを　ずっと　つきつめてみたいデス
青山義久　78.11.29」

Bさん；お二人の娘さんから挨拶がありました。父親として青山さん。娘さんたちを最初から一人の人間として見て呉れたこと。仕事のことはあまり言わなかった、音楽をやってほしいとは言わなかった。自分はスポットライトを浴びる舞台の主役よりはそれを演出する、影で支えるそんな役割は好きだとも。

Cさん；三多摩アコーディオングループの指導や関東アコの審査員、関東アコ伴奏講座の講師、その他にも編曲や演奏活動でファンも多かった青山義久さん。人の命のはかなさを改めて感じることになりました。多くのお弟子さんも育てていらっしゃったので、青山先生のアコーディオンに対する想いや姿勢は引き継がれていくことと思います。

本日の片づけはアルトとテノール

≪今後の会議≫
10月　２日（水）　15：00～　運営委員会　西区地区センター（お間違えの無きように）